

つむぎ通信

vol.21

在宅連携センター「つむぎ」

TEL/053-451-2807 FAX/053-451-2808

✉soudan@hamamatsucity-medical-co.jp

在宅連携センターつむぎ浜松

検索

在宅連携センターつむぎは、高齢者を支える医療・介護・福祉関係者の相談窓口として2016年1月に開設しました。「つむぎ通信」は2019年度から在宅連携センターつむぎの周知と情報発信のため発行しています。つむぎホームページは[こちらから](https://www.hmedc.or.jp/tsumugi/) → <https://www.hmedc.or.jp/tsumugi/>



つむぎへの相談方法のご案内

日頃から、つむぎへご相談いただき、ありがとうございます。

今回はつむぎへの相談方法についてご案内します。

電話やFAX、メールでの相談を受け付けています（急ぎの場合は電話で相談してください）。

FAX、メールでのご相談の際は、つむぎのホームページにあります相談用紙をご活用ください。



TEL : 053-451-2807

FAX : 053-451-2808

E-mail : soudan@hamamatsucity-medical-co.jp

相談用紙は右側のQRコードから→



地域包括ケア病棟を活用してみませんか？

つむぎでは、医療と介護の包括的かつ継続的な連携を推進しています。今回紹介するのは「地域包括ケア病棟」です。この病棟は、急性期の治療が落ち着き、在宅復帰を目指すことを目的としています。医療依存度が高く、介護系施設のショートステイで受け入れが難しい方も相談が可能です。

★入院対象となる人★

- ・急性期治療は終わったが、しばらく経過観察が必要な人
- ・在宅療養復帰・社会復帰のため、リハビリテーションや療養準備が必要な人
- ・レスパイト（介護をする人の事情で短期的に入院すること）が必要な人

★特徴と利用のポイント★

- ・回復期リハビリ病棟とは異なり、病名に関係なく入院してリハビリができる
- ・在宅復帰を目指すことが目的のため、退院時は原則、自宅退院か介護系施設入所
- ・入院期間は通算60日が上限
- ・レスパイトはおおよそ14日（各病院と要相談）



市内には該当病院が7か所あります。つむぎは定期的に地域包括ケア病棟意見交換会に参加して、各病院と情報交換しています。

利用方法に関する疑問など「直接病院に問い合わせる前にちょっと聞いてみたいな」ということがありましたら、気軽にご相談ください。つむぎのホームページも参考にしてくださいね。



2025年度上半期 認知症（疑い含む）に関する相談の状況について

2025年度上半期の相談の中から、認知症（疑い含む）に関連する相談について報告します。

個別ケース103件中29件について、認知症の症状が見られました（約28.1%）。

相談内容を見ると、これまで在宅で過ごされていた方が施設入所を検討する際に、認知症の周辺症状で苦慮する傾向があるようです。

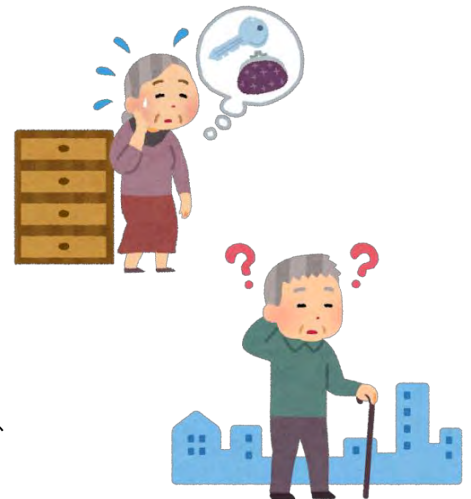
つむぎは、行政や医療機関、支援団体等と協力しながら、本人に健康や生活のサポートが届くように一緒に検討していきます。

《相談内容（個別相談に限る）》

相談内容	件数	周辺症状の有無	件数
施設入所	17	周辺症状あり	20
受診	5	周辺症状なし	8
受診・入院	1	不明	1
生活支援	1	計	29
対応方法	3		
在宅サービス	1		
ショートステイ	1		
計	29		

※周辺症状

暴言・暴力、大声、不穏、せん妄、
物盗られ妄想、徘徊、妄想 など



相談事例 ～相談内容を紹介します～

相：相談者
つ：つむぎ

相：帰宅願望が強くデイサービスも短時間利用が限界であり、暴言がある方が過ごせる施設を教えてほしい。

つ：状況を伺うと、本人が内服できているか不明であった。精神科医のいる病院で症状のコントロールをすることをお勧めした。また、市内の認知症治療病棟のある医療機関複数か所の待機情報を提供した。

相：急性期病院に入院中に看護師に暴力をふるい、入院継続できず急遽ショートステイ利用中の人。成年後見制度の申し立てのための診断書を作成してくれる病院を教えてほしい。

つ：市内の精神科病院複数か所の予約状況について情報提供した。また、地域包括ケア病棟での入院中の診断書作成について相談可能な医療機関を伝えた。



ケアマネジャーと病院職員の意見交換会を開催しました

9月6日、旧浜北区を対象に、10月22日、旧東区（3包括と共催）を対象に「ケアマネジャーと病院職員の意見交換会～入退院に関わる職員の交流～」を開催しました。

地域包括支援センターの方々にご協力いただき、それぞれの地域の特徴を説明してもらいました。その後は「患者・家族が不安なく退院できるように自分たちができることは何か」をテーマにグループワークを行いました。最後に参加者が「私の小さな行動変容宣言」をしました。それぞれの立場を理解し、今後の連携に活かしていただけましたら嬉しいです。

